

高梁川流域 キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域の

指定文化財(史跡)

とうげいち、に、さんごうふん(れきしひろば)

峠1・2・3号墳(歴史広場)

新高見梁市

総社市

早倉矢井浅里笠島敷掛原口庄岡町市町市町市



場所

・総社市清音三因



時代

・古墳時代



指定年月日

・平成7(1995)年
12月13日



所有

・総社市



この史跡について

福山の西斜面には6世紀後半～7世紀中ごろの群集した古墳が数群あり、これらを三因古墳群と総称しています。このうち、最南端に位置する67基からなる古墳群を峠古墳群と呼んでいます。峠古墳群のうち、1～3号墳が村道の拡幅工事にかかることから、平成5(1993)～平成6年にかけて発掘調査が実施されました。

その結果、1号墳は径約11mの円墳で、墳丘の築造には人頭大の石を多く使っていたことがわかりました。2号墳は径約9mの円墳で、1号墳と同じく7世紀前半のもですが、より新しい段階のもので、3号墳は径約10mの円墳と考えられていますが、円弧を描かず直線的で鈍角にとがることから、多角形墳の可能性もあります。6世紀末～7世紀初頭に築造され、最終埋葬は7世紀末～8世紀初頭と考えられます。3号墳の第2石室は、長さ2.7m、幅0.76mをはかる小規模な横穴式石室です。3号墳の墳丘の端に接して、古墳を取り巻く堀の中に築かれた特異なもので、県内では他に例をみません。

墳丘の形状や、石室の築造が特異であることから、1～3号墳は移築して、築造当時の姿に復元し、この場所を歴史広場として公開しています。